

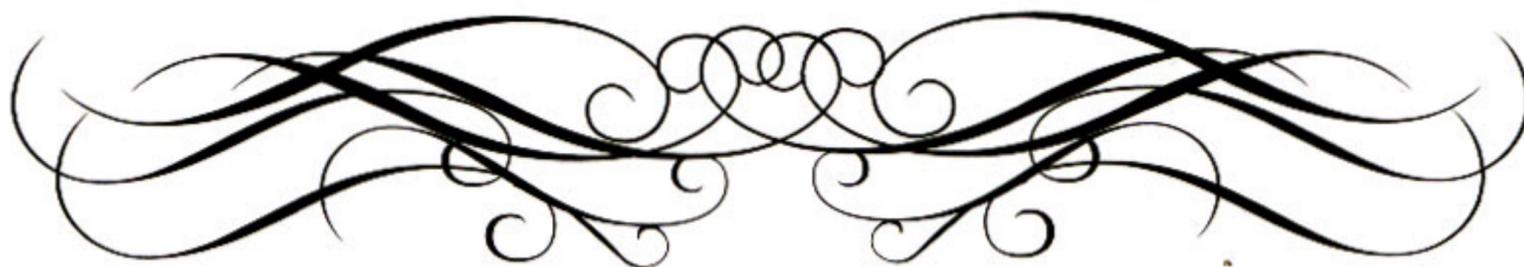
第16回

**留学生による
日本語作文
コンクール**

入選作発表
2009年9月



主催・大阪鶴見ロータリークラブ
協賛・大阪日本語教育センター



第16回作文コンクール入賞者

初級

最優秀賞

該当者ナシ
代わりに優秀賞2名追加

優秀賞

SENGENDO KENETH PAUL
(ウガンダ)
センゲンド ケネス ポール
「私の朝日」

ALFA ANDIRINA AFANDY
(インドネシア)
アフアンディ アルファ アンディリナ
「日本の家族」

HOSSAIN ZOBAER
(バングラディッシュ)
ホセイン ゾバエ
「国と家族から離れて」

王 丹 (中国)
オウ タン
「日本での生活」

中級

最優秀賞

韓 灵 (中国)
カン レイ
「挑戦」

優秀賞

AMORNWONGSWANG BENJAMAT
(タイ)
アモーンウォンサワーン ベンチャマート
「電車の中で見た日本人」

刘 淼 (中国)
リュウ ミョウ
「日本人は包装することが大好き」

審査員特別賞

BARRASO ROMERO
VICTOR MANUEL
(スペイン)
バラソ ロメロ ビクトル マヌエル
「飲ミニケーション」

上級

最優秀賞

赵 昊亮 (中国)
チョウ コウリョウ
「最後の一時」

優秀賞

SCHUERI SANTIAGO ISMAEL
(アルゼンチン)
シュエリ サンティアゴ イスマエル
「夢とは・・・」

昔 珍杓 (韓国)
ソク ジンピョ
「私にも夢があります」

初級参加者 32名

黄 聖元 (台湾)

郭 淵 (中国)

刘 克伦 (中国)

李 蒙 (中国)

TONG JOSE HENDERZON DULTRA (フィリピン)

KARAKAMA MA. SAYORI DEFEO (フィリピン)

AYUNINGKAPUTRI WINETTA (インドネシア)

吕 耀超 (中国)

王 丹 (中国)

胡 嘉茵 (中国 香港)

CHANSEAWRASSAMEE WONGSAKORN (タイ)

金 秀珍 (韓国)

侯 宇航 (中国)

雷 鹏 (中国)

HOSSAIN ZOBAER (バングラディシュ)

RAMOS KYM MENDOZA (フィリピン)

BAATAR ZAGDRAGCHAA (モンゴル)

ERDENEBAT ERDENETSETSEG (モンゴル)

PHEANGTHAVANH SONEVILAY (ラオス)

PESCADOR MADRID VICTOR (スペイン)

JENNIFER HADIBOWO (インドネシア)

ALFA ANDIRINA AFANDY (インドネシア)

LEGUA NELSON RODRIDGE (ソロモン諸島)

MELLO PAIVA TALES (ブラジル)

SENGENDO KENETH PAUL (ウガンダ)

DOGBE DAVID (ガーナ)

ILAVUNA ERICK KAGESI (ケニア)

NJANE SAMWEL KAMAU (ケニア)

MUTHEE TONY KAGETE (ケニア)

YAO KOFFI HUBERT WILFRIED (コートジボアール)

ALHANAKI, ABDULLAH MUNIEIN (サウジアラビア)

ALJOHANI, ABDULKAREEM JAMEEL S (サウジアラビア)

中級参加者 52名

SALEH, KHALID ABDULLAH A (サウジアラビア)	刘 森 (中国)
ALANAZI, ABDULAZIZ SAUD S (サウジアラビア)	田中 慧 (ブラジル)
THEE SWEE TING (マレーシア)	胡 泽浩 (中国)
WU IZOO (アメリカ)	崔 在完 (韓国)
鄭 相範 (韓国)	王 常長 (台湾)
陳 愉捷 (台湾)	刘 容男 (中国)
林 修安 (台湾)	KOCHAR RIDDHI (インド)
林 嘉君 (台湾)	柳 菱智 (韓国)
ALRAMADHAN, FATEMAH DAWWOD S (サウジアラビア)	丛 一 (中国)
BANTAN, NOUF MOHAMMEDALI A (サウジアラビア)	AL ABASS, ALI YAHYA A (サウジアラビア)
BANTAN, FAKHIR MOHAMMADALI A (サウジアラビア)	ASEERI, WAHIB YAHYA O (サウジアラビア)
李 鍾先 (韓国)	IBRAHIM MOHAMMEDALI S AL RAMADHAN (サウジアラビア)
严 琰 (中国)	BARRASO ROMERO VICTOR MANUEL (スペイン)
李 婉宁 (中国)	HERNANDEZ ESPARZA MAURICIO (メキシコ)
韓 灵 (中国)	WEE YIH CHIAN (マレーシア)
AMORNWONGSWANG BENJAMAT (タイ)	PONGSATHAPORN THANUNCHAI (タイ)
李 雯 (台湾)	蘇 育臻 (台湾)
林 佳瑩 (台湾)	韩 旭 (中国)
苗 辉 (中国)	张 福哲 (中国)
王 叶盛 (中国)	张 煜 (中国)
刘 钊 (中国)	陳 文鈞 (台湾)
马 妍 (中国)	BENNY LEONO (インドネシア)
崔 延和 (韓国)	TENG OUDAM (カンボジア)
趙 雅灑 (韓国)	GANBAT MUNKHTSETSEG (モンゴル)
吳 重院 (韓国)	
王 浩乐 (中国)	
吳 雨均 (台湾)	
于 姣 (中国)	

上級参加者 51名

孙 筱丁 (中国)

牟 玲 (中国)

卢 毓 (中国)

吴 琼 (中国)

陈 颀 (中国)

史 慧萍 (中国)

康 菁 (中国)

贾 磊 (中国)

李 昂 (中国)

王 洋 (中国)

邹 鹏 (中国)

杨 清 (中国)

王 绎祯 (中国)

周 博文 (中国)

游 冠祯 (中国)

刘 伟 (中国)

杨 天慈 (中国)

刘 慈懿 (中国)

张 然 (中国)

王 硕 (中国)

吴 齐 (中国)

赵 斐 (中国)

丁 云劼 (中国)

赵 昊亮 (中国)

王 佳 (中国)

FATANI AMJAD MOHAMMED A (サウジアラビア)

翟 昌亮 (中国)

劉 玲瑋 (台湾)

王 俊仁 (台湾)

PRAWIRA HENRI (インドネシア)

許 柚賑 (韓国)

曾 偉哲 (台湾)

陳 颀穎 (台湾)

陳 俊憲 (台湾)

朱 彧緯 (台湾)

王 艺雯 (中国)

王 大冠 (中国)

童 天 (中国)

林 玉婷 (中国)

李 伊然 (中国)

马 苑聪 (中国)

陈 翰 (中国)

CHIN SI HUI (シンガポール)

昔 珍杓 (韓国)

方 盈文 (台湾)

吕 琰 (中国)

高 雪菲 (中国)

陳 晟 (中国)

YOONG CHIA YEN RAINE (シンガポール)

SCHUERI SANTIAGO ISMAEL (アルゼンチン)

IVARSSON PATRIK JOHAN ROLAND (スウェーデン)

私の朝日

SENGENDO KENETH PAUL (ウガンダ) センゲンド ケネス ポール
優秀賞 (初級)

私の母の家はカンパラの郊外にあります。1990年に母は父と死別したので、家の大人は母だけです。私たち子供はまだ小さかったので、母は一人でいっしょうけんめい働いていました。

毎朝五時半ごろ起きて、市場へ働きに行きます。市場で人々はとても忙しいので、ねこの手もかりたいほどです。時々母は家へりょうりを作りに帰りました。昼ごはんの後で市場へもう一度行きます。そして夕方帰ります。毎日母は疲れたのに、家の中のことをきちんとしました。いつもそうじやせんたくなどをしました。でも夜には母は私たちといっしょにあそびながら、教育の歌を歌ってくれました。歌う時、母は元気になりました。それから母は古い物語を話してくれることもあったので、みんなしずかに聞きました。その物語はこわかったですよ。けれどもおもしろかったです。母の話をきくと私たちはしあわせな気持ちになりました。それだけでなく、母は私たちにしつもんをします。「何をなりましたか、子供たちは自分で考えて答えなさい。」それから母は一番いい答

えをえらびます。

私たちは母にたくさんのことをなりました。でも、もう六さいになりましたから、学校へ行くことになりました。小学校から高校まで、学校のりょうに住みました。毎月の終わりに母は学校へ食べ物を持って来ました。母と私はいっしょに話しながら、食べました。母はいつも勉強の大切さをきょうちょうしました。それから学校のじむしょでお金を払いました。時々学校のお金がない時は、母は校長先生に「時間を下さい。」と言いました。

今考えると、母は私の朝日です。母のアドバイスは私の道をてらすあかりです。もし母がいなければ、私のきぼうも生まれなかったと思います。

日本の家族

ALFA ANDIRINA AFANDY (インドネシア) アファンディ アルファ アンディリナ
優秀賞 (初級)

2009年1月、学校の試験の初日にインドネシアの日本大使館が私に電話をかけて、私が文部科学省の奨学生に合格したと言いました。うそみたいでしたよ。私はとても幸せ、でも心に混乱もありました。家族がいなくてどうなるのでしょうか。泣いた夜も幾夜がありました。でも、私は行かなければならなかった。なぜなら、私のゆめが本当になったからです。

2009年3月27日は私がジャカルタへ行った日で私の恋人が車で空港まで送ってくれました。空港とひこうきで私は泣きました。私は痛みが我慢できませんでした。

2009年4月1日、ジャカルタから日本へ来ました。ひこうきに七時間のっている間、私はずっとねていました。泣きたくなかったからです。その日から、何でもじぶんでしなければなりませんでした。何度ももんだいがあり、かいけつするのはこんなんでした。家族がいなくて、とてもさびしかったです。

2009年5月21日、私の誕生日、十九さいになりました。当時、私は本当にうれしくなかったです。家族が電話

をかけてくれませんでした。あねがけっこんして、いそがしかったからでしょう。国へかえりたくなりました。生まれて初めて私の誕生日が大きらいでした。

でも、私ははじめから、間違っていました。友達が「お誕生日おめでとう」と言ってくれて、ちょっと元気になりました。夜に友達は小さいロビーでサプライズパーティーをしてくれました。みんないっしょに「ハッピーバースデー」を歌って、ケーキを食べて、たくさんしゃしんをとりました。とてもうれしかったです。

いつでも私が家族を必要とする時期には、友達がいます。今、家族をもう一度手に入れました。友達は私の日本の家族です。

国と家族から離れて

HOSSAIN ZOBAER (バングラディシュ) ホセイン ゾバエ
優秀賞 (初級)

その日は2009年1月3日だった。電話が鳴った。母が電話を受け取った。母の顔の表面には幸福、そして陰には複雑な気持ちがあった。母は私が奨学生に選ばれたことを言った。その日以来母は私に日本へ行かないで、国の大学へ進学してと叫んだ。そして私が日本へ来る前の1か月間、毎日泣いた。

日本は私の国と全く違う。騒音のない町、新しい車、親切で美しい人々、そして開発された交通システム、その全てがいい。電車は日本の容易で安価な輸送手段である。列車の中はとても退屈に思える。人々は読書をしたり携帯電話を使用したりしている。日本にはたくさん販売機がある。日本の人々の一生けんめい働く性質によって日本は成長しているのである。

日本語学校でいろいろな国の人と友達になった。友達といっしょにたくさん遊んだり日本語で話したりしている。私は家族の一員として生活のためにする全ての試みをした。それは私が母の手によって調理される食料を食べなかった3か月間のことである。調理

した場合常に台無しにする。その時私はどうしても母のことを考えてしまう。日本のここにとどまることは楽しみである。毎日の新しい経験。私は眠る直前に暗闇と孤独に囲まれる。国にいた時に私は決して私の親や私の国の重要性を認めなかった。今私はいかに自分が愚かであったか意識する。

私は今手にした機会をできるだけ利用したいと思う。今私はただ母に忍耐強くいるように言っている。ただ私の幸せを願い私に時間を与えてほしい。私は母の予想に立ち向かうために私のベストを尽くしたい。

日本での生活

王 丹 (中国) オウ タン

優秀賞 (初級)

私は、中国でも日本のアニメと漫画が大好きで、よく見ました。ですから、日本語を勉強したいと思って高校を卒業したあとで日本語を勉強していました。

今、日本に来て3か月になりました。はじめて来た時は、少ししか日本語が話せませんでした。ですから、日本人と話す時、はずかしいと思って、あまり日本語で話しませんでした。中国では日本語の授業の時しか勉強しませんでした。ほかの時間は日本語をあまり話しませんでした。それで今も日本語の会話が下手です。けれども、今、日本にきて3か月になりましたから、毎日、日本人と話したり、授業の時、先生と会話をしたりしています。だから日本語がだんだん上手になりました。しかし、日本語はまだそんなに上手ではありません。また、日本語の授業もだんだんむずかしくなってきました。

日本で私はたくさんの人と友達になりました。インドネシア人やサウジ人や韓国人などいろいろな国の友達ができました。たくさんの友達と話をすると悩みが忘れられます。

今、私は「ブレアハス」というの寮に住んでいます。寮にはたくさん中国人が住んでいますから、寂しくないと思います。中国に住んでいるようです。だから、楽しく勉強しています。

日本は物価が中国より少し高いので、毎日、買い物をする時はもったいないと思いました。たとえば、西瓜は中国では夏、一番安い果物ですが日本では1000円ぐらいします。私は大好きですから、それは残念です。中国では料理がほとんどできませんでした。今はたくさん料理が作れるし、だんだん上手になりました。中国料理はほとんど作れますが日本の料理はお寿司しかできません。それは残念です。けれども、今日本の生活にもう慣れました。

毎日、幸福に感じています。

挑戦

韓 灵 (中国) カン レイ

最優秀賞 (中級)

毎日が同じ事をくりかえす日々ですけれども、毎日が楽しくて幸せなのは何かを習う、何かに挑戦することができるからだと思います。

眠い目をこすりながら起きて顔を洗い、朝ご飯を食べて余裕もなく学校へ向かいます。

学校はいつもたくさんの問題が待っています。でもこんな問題を見ても笑顔が出る理由はその問題を解いて自分の頭の中に知しきを一つ一つ入れていく事ができるからです。

いつからかはっきりは覚えていませんが私は何かに挑戦する事が大好きになりました。すぐには解く事ができない問題でも時間をかけてかんがえ、答えが分かった瞬間、私にとっては最高の幸せの瞬間です。

母がいつも私に言う話があります。「挑戦には時々失敗もあります。でもこれははずかしいことではありません。ほんとうにはずかしいのは挑戦中にあきらめることです。」私はいつもこの話をこころに持って、挑戦中にたいへんだったら、この話を思い出します。そうすると、こころが落ち着いてもう一度挑戦しようという気

持ちになります。私はみんなが言う「失敗は成功へ行く道です。でも同じところで2回、3回倒れるのははずかしいことです」というのを理解していますからいつも失敗しても笑ってすぐ立ちますが、つぎからこんな失敗はしないようにがんばっています。

今私は一番キーポイントのところに立っていると思っています。それは大学に入れるか入れないかを重要な問題と考えているからです。大学に入るために今数学、英語、社会などを勉強しています。毎日の勉強は新しくとてもおもしろいですがこの中で特におもしろいのは、数学の問題を解くことです。その理由は数学は外の科目とちがってその中に入り、かんちがいは捨てて、もっと早く問題を解くためになん回もなん回も挑戦するからです。時々世界も数学と同じ一つ一つの挑戦ではないかと思います。答えは成功という言葉一つだけですがみんながこの目的に到達するために失敗してもまた挑戦するからです。

学校の忙しい一日が終って家へ帰る道で小さい子供が自転車に乗るために、いっしょうけんめい練習している

のを見ました。その子供は何回も何回も倒れてしまいますけれどもそんな時いつも自分で立って続けて練習しました。こんな子供を見て子供のお父さんが「もういいよ」と子供に家へ帰るように言いましたが子供は笑いながら「大丈夫」と言って練習を続けました。その子供が一人で自転車に乗る事ができたかは見ていませんでしたが私はその子供がきっと乗れたと思います。この理由はその子供が何回倒れても立ちあがり乗る目的を持ってもう一回、もう一回と挑戦してだからです。

実は挑戦することはとてもやさしいです。でも結果を出すのがたいへんです。だから今日も挑戦の結果を見るために、たくさんのちしきを頭に入れるために私は私の能力に挑戦しています。

電車の中で見た日本人

AMORNWONGSWANG BENJAMAT (タイ) アモーンウォンサワーン ベンチャマート

優秀賞 (中級)

昨年秋、ある知り合いの人から、日本へ留学しないかというさそいが持ちあがり、のん気者の私も決めるまでとても不安を感じていました。そこで日本に住んでいた経験がある人から日本での生活についていろいろなことを聞きました。日本の文化は高く、産業や工業がすぐれていること、きれいな所がたくさんあることも聞きながら、どういう状態かなと想像していました。

3月末、桜の花がさき始めた時日本に来ることができました。タイ空港から関空まで6時間の空のたびでした。ホームステイ先は南海高野線の金剛駅近くです。4月13日いよいよ学校が始まり、電車通学をすることになりました。南海高野線から近鉄線に乗りかえ、大阪上本町駅でおります。約1時間余りけっこう長い時間電車に乗っています。電車の中で見た日本人はみんな、それぞれのことをやっています。例えば新聞や小さい本を読んでいる人、音楽を聞いている人、携帯でメールを送る人、居眠りする人たちもいます。不思議なことも見つけました。それは電車の中でもプラット

ホームでも若い女性がとても丁寧に化粧していることです。大きいかがみを出してまつ毛にコーティングを何度も何度もしていました。まわりの人はあまり気にしていない様子でしたが、私の国では見たことがないのでびっくりしました。また、日本の電車には「優先座席」のプレートがはってありますが、それに座っているのはお年よりや小さい子供や体の不自由な人ではなく、若くて元気そうな人たちでした。おどろいたこともけっこう多くありますが、感心したことも多くありました。例えば、タイでは見かけない時刻表や、女性のための「女性専用車両」があることです。また、日本は世界の「長生きの国」と言われていますが、たくさんのお年よりにも出あいました。みんな元気でイキイキとしていて、とても若々しく見えました。道を聞いたり、買い物をしたりする時にだれに聞いたらいいかな？とまわりをきよろきよろ見てやさしそうなお年よりに聞くことにしました。とても親切に長い説明をしてくださいました。

日本に来ておどろくことや感心させられることはたくさんありますが、そ

ここには長い年月と多くの人々でつくり上げてきた文化や生活習慣、環境の違いがあり、どちらが良いとか正しいとか言うのではなくお互いの違いを認めあい理解すること、むずかしいことかも知れないけど学びあうことが大切だと思います。日本語教育センターには30の国から180人ぐらいの人たちが来ていますが、みんなそれぞれ国や地方が違って生活習慣も考え方も違います。とても個性的です。だから毎日の学校での生活が楽しく教室でも笑いがよくおこります。時々国の友達とタイ語でタイ料理のからい味とか行ってきた所について話していると、国に帰ったような気分になります。

日本に来てまだ3ヶ月にもなりません、これからも一生けん命勉強をし、多くの人々に出会い、いろんな経験をしてできるだけたくさん吸収して、生活に役立てたいと思っています。そして日本で学びたいタイの後輩たちに日本で経験したことやいい思い出を伝えたいと思います。

おわりになりましたが、日本留学を許してくれたタイの両親と協力してくださっているたくさんの方々、日本での生活を支えてくれるホームステイの方に感謝の気持ちを表わしたいと思います。

日本人は包装をすることが大好き

刘 淼 (中国) リュウ ミヨウ

優秀賞 (中級)

私は中国の黒龍江大学で日本からの留学生の大門さんと友達になりました。それで彼からいくつか日本の事を教えてもらったので、だんだん日本に対して興味を持つようになりました。そして、私は卒業後、日本の大学院に入るために日本に留学して来ました。今年の四月に来日し、2ヶ月たちました。今日本に関して少しずつ理解しているところです。

聞くところによると日本人はとても包装することが好きだそうです。日本へ来て、これは本当だと思いました。来日後、私は一週間おきにスーパーマーケットに行き買い物をしています。スーパーマーケットの中には種々の商品があります。また、その商品はきれいに包装して並べてあります。野菜や肉や果物などはすべて鮮度を保持する白い発泡スチロールの皿の中に入れて、サランラップで商品を包んで冷蔵庫の中に並べてあります。私の住んでいたハルビンでは、スーパーでも商品は日本の市場のようにただ並べてあるだけです。トレーに入れてラップしている店は少ないのです。日本の子供は火が通った野菜は

知っていますが、成長中の野菜は知らないそうです。根がついているねぎを見たことがない子供も多いでしょう。また、お弁当の中にも野菜の間に青い草のような形のプラスチックの製品が置いてあったので、初めて弁当を食べた時に少しびっくりして、どうしてこのようにするのか。不思議でした。

日本人はとても包装することに優れています。その一つの例はコンビニのおにぎりです。おにぎりの原料は米であるため、携帯するのに不便です。日本人が考えた、現在のコンビニのおにぎりの包装はとても便利です。

ところで日本人の極端な包装の例をこの間見ました。五月のはじめに母の日のプレゼントを買うために、私は従姉と一緒に心斎橋へ行きました。そこはかなりにぎやかなところでした。母の日には多くの店でプレゼントを売っていました。従姉は彼女の母にプレゼントする生花を買うつもりでした。生花を選ぶ時私は多くの花がすべてきちんと包装してあることを発見しました。たいへんきれいでした。しかし装飾品が多すぎます。一つの贈り

物の中に2、3本の生花だけしかなくて、そのほかはすべて包装紙と装飾品です。従姉は最後に1束のピンクのカーネーションを選びました。3つの花だけしかないものが、包装されるとサッカーボールみたいに大きくなりました。従姉の贈り物は生花なのか、それとも包装紙なのかわからなくなりました。私は商品に適度な包装するのがもっといいことなので、更に商品がきれいになるし、人々に意外な喜びを与えることができると思います。

中国のことわざに「一方水土養一方人」ということわざがあります。このことわざの意味は「国の地域が異なっていれば、文化と習慣も異なります」ということです。今日本人の生活の中で包装がすでに不可欠な物になっています。これには二つの理由があると思います。まず、日本は資源が少ない島国なので、日本人はとても資源を大切にします。スーパーの中の物はかんたんな処理をして、包装して、きれいになるだけではなくて、資源を節約することもできます。その次に、日本人はどんなことでもまじめにやるし、かんたんな包みでも入念に包みます。それは入念にしないとできません。このことは日本人の特徴でしょう。

多くの文化的な差異を持って、私たち留学生は日本に来ました。日本に対

して何も知らないから、異文化を受け止めて、だんだん日本の生活に適応していくのでしょうか。さて次は、どんな異文化に出会えるのでしょうか。

飲ミニケーション

BARRASO ROMERO VICTOR MANUEL (スペイン) バラソ ロメロ ビクトル マヌエル

審査員特別賞 (中級)

私の日本人の友達が今年の四月に会社に入って、その会社でのむずかしいことを私に話してくれました。一番むずかしいのは、仕事が終わってからいざかやで会社の人たちとビールやお酒などを飲まなければならないことだと言いました。私ははじめはなぜ上司と同僚とお酒を飲まなければならないかわかりませんでした。スペインでも同僚とパールでワインやビールを飲みますが、私が行きたい時だけでいいです。しかし、私の友達は行きたくない時も行かなければなりません。それに、たいていうちへおそく帰ります。ですから、私はどうして行かななければならないのかしつもんしました。友達は「日本人はお酒を飲んでコミュニケーションをするからです」と言いました。それを飲ミニケーションと言うそうです。

飲ミニケーションをする時、大じなこと三つあります。

まず、上司にお酒をつがなければなりません。部長と課長と係長の中で一番えらい人は部長ですから、最初に新人は部長につがなければなりません。

次に上司のジョークがぜんぜんおもしろくない時も、「とてもおもしろいジョークでした」と言わなければなりません。私の友達は特に部長のジョークが一番おもしろくないから、「大変です」と言いました。

それから、いつも上司を「とてもすごい」と言わなければなりません。それを日本語で「ごますり」というそうです。たとえば「上司はとてもやさしいです。」とか「上司は仕事ができる。」とか言わなければなりません。

私の友達はほかの友達とやくそくがある時上司が「飲みに行こう」と言ったら、ほかの友達に「ごめんなさい」と言って上司と居酒屋へ行きます。

そして、たくさんお酒を飲んでも、私の友達は上司の前では、よっぱらいません。上司と別れて一人で電車に乗った時に、よっぱらい始めます。それは上司の前で気をつかうからです。

私は飲ミニケーションを知ってから、なぜ日本人がたくさんお酒を飲むのか、なぜ会社の仕事がむずかしいか

がよくわかりました。

飲ミニケーションのせいで、ほとんどの会社員、特に新人は仕事が終わっても、まだいそがしいです。そして、家族があっても、ひまな時間がありませんから、家族といっしょにすることができません。たいてい会社員は仕事が終わって、居酒屋で上司と同僚とお酒を飲まなければなりませんから、夜おそくうちにつくと子供はねているから子供と遊ぶことができません。次の日会社員はうちをととても早く出なければなりません、子供はまだ寝ているから、朝も子供といることができません。ですから、家族のメンバーの間にコミュニケーションがあまりありません。私は仕事でもうちでも、飲ミニケーションよりコミュニケーションだけの方がいいと思います。

私の国ではたまにしか会社の人とパールへお酒を飲みに行きません。ふつうは、仕事が終わるとすぐ家族とすごすためにうちへ帰ります。それから、週末になると友達か家族といっしょにパールかレストランで飲むことも話すこともします。

最後の一時

趙 昊亮（中国） チョウ コウリョウ

最優秀賞（上級）

よく、出会いと別離は人間の常情だと言われている。出会いがあれば、別れもあることは当然である。しかし、出会いの喜びや別れの悲しみなどと言った感情は、それを経験した者にしか分からないものである。出会いといい、別れといい、今までもう何度となく経験してきた。しかし、これほど心に染みわたった別れは、今回が初めてだろう。

それは、日本に来る少し前の事だった。中国では慣例として、大学の新入生を軍事訓練に参加させることになっている。もうじき学校を止めて国を出る僕にとって、軍訓は本来参加しなくてもよいものだった。軍訓の厳しさは中国人の誰もが知っている。しかし、その過酷な試練に、僕はあえて挑戦した。

軍事訓練の訓練科目は相当の体力と精神力を要するものだった。その訓練の厳しさについては見当がついていた。しかし、それ以上に困難だったことは、クラス全員を一つにまとめることであった。何度練習を繰り返しても、手を振る高さや頻度はバラバラ、男子と女子の歩幅やテンポは釣

り合わない。そして同じ学生がミスをしたせいで何度も全員が罰を受けた。「罰するならあいつだけにしろよな。どうしてあいつのせいで俺達まで罰を受けなきゃならないんだ。」と不満を言う学生も現われ始めた。その時、返ってきたのは教官の厳しい説教だった。「いいか、お前達は一つのチームなんだ。全員揃って初めてクラスは成り立つんだ。軍訓はクラスを團結させるためのもので、クラスを分裂させるためのものではない。一人の責任は全員の責任だということをしっかり覚えておけ。」その言葉は、みんなに仲間の大切さを教えた。困難に共に立ちむかっていけるからこそ仲間だと呼び合える。仲間だからこそ誰かが「遅く」でも絶対に見捨ててはいけないのだと、僕は深く考えさせられた。

訓練の日々はあっという間に過ぎていった。みんなの動きはだいぶ整ってきたが、各々の心は依然としてまとまりがないような感じがした。閲兵式が真近に迫ったある日、教官は僕達にこう言った。「お前達の中には、軍訓が終われば学部を変えたり、国を出たり

する者もいるだろう。しかし、今ここにいる以上、お前達はこのクラスの学生だ。それを意識して、もっと全力を尽くせ。」みんなと一緒に過ごせる時間ももう残りわずかとなった僕にとって、その言葉は、まさに自分の本心そのものだった。もうじき別れるからこそ今の時間を大切に過ごすことに意味がある。最後だからこそ全力でがんばることに意義がある。

本番の日はずいぶん訪れた。全会場の人々の視線を一齐に浴び、僕達の緊張感は一気に達した。頭の中は真っ白だったが、これだけはよく感じる事ができた。僕達は、動きも、かけ声も、そして心も一つにまとまっていた。ついにやったのだ。

本番終了後、教官は僕達に最後のメッセージを伝えた。「軍訓はこれで終わった。しかしお前達の人生はこれからだ。私がお前達に本当に学んで欲しかったのは、どんな困難にも立ち向かっていける軍訓の精神だ。それをもってすれば、克服できない困難などないだろう。私が教官として言いたいことは以上だ。この先、もう、二度と会うことはないだろう。これが最後の号令になる。解散。」しかし、誰も動こうとはしなかった。花束を持った教官が人混みの中に消え去るのを黙って見ているだけだった。先ほどまで軍訓の終了を喜んでいた女子達がぼろぼろ

涙を流していた。先ほどまで苦しい思いだらけだった軍訓が、今は懐かし思い出でいっぱいになったのだ。過去に残した傷跡さえ、今は愛しい。別れの時になって、初めて以前の出来事が全て美しく見えるようになるということ、この時ほど身にしみて感じたことはなかった。

軍訓前、よく友達に「どうしてこんなことにわざわざ進んで参加したんだい？」と聞かれた。確かに軍訓は辛い。しかし、みんなと最後の一時を過ごせるなら、例え苦しくても意義があると僕は思った。みんなとの縁を大切にしたいと、僕は思った。一週間後、杭州を離れる際、空港に見送りに来てくれた学級委員の夏さんは僕に言った。「このクラスに一日でもいた以上、あなたは永遠にこのクラスの一員なのよ。私達がこうして出会えたのも、きっと何かの縁に違いないわ。」そう、長い間一緒にいることだけが縁ではない。本来赤の他人であった僕達がこうしてクラスメートとして知り合うことができただけでも立派な縁であり、大変すばらしいことだ。そして、別れは古い縁を打ち切るのではなく、新しい縁を結ぶことであろう。僕は、その思いを胸に抱きながら、今日も人生という道を歩み続けている。

夢とは・・・

SCHUERI SANTIAGO ISMAEL (アルゼンチン) シュエリ サンティアゴ イスマエル
優秀賞 (上級)

夢とは一体何だろうか。何度も耳にした「ユメ」という言葉の真の意味を考えると、思ったよりもずっと大切であることに気づいた。とりわけ日本人は夢というものに外の国の人よりもずいぶんこだわるような気がする。「夢のために・・・」という風な台詩をよく耳にする。偉大で無我な夢を抱く者がいる一方、小さく、単なる、お金で実現させることのできる夢を持つ者もいる。でも何にせよ、夢を持たない人なんていないのではないだろうか。

当然ながら私にも夢がある。しかも、実現させた夢もある。その夢とは・・・日本に住んで、日本で勉強して、日本社会の一員になるという夢だ。幼い頃から、日本という遥かな国に非常に深い興味を持ち、日本語を勉強しようと、中学時代のある日に何となく決めた。ある説明会に出席し、日本で勉強するための奨学金があることを知り、その時に決めた。あの険しそうな道を歩み始めることを、あの定められた運命の流れを変えることを、そしていずれ必ず、世界の反対側の、私が知っている全てから遥か遠く離れた日本の土を踏むことを。その日が私の人生の分かれ道となり、もう一人の

私が生まれた日であった。

子供の頃から、私には眠っている力があると、幾度も家族にも先生方にも言われてきた。聞き飽きていたその言葉の意味は本当だったかもしれない。夢を日指すことにより、その眠っていた力が自然にみなぎり、全力を尽くし始めた。一体なぜあの日までは100%を尽くしていなかったかということ、それは夢がなかったからだ、今の私は思う。説明会の明くる日に学校に行ったら、私には全ては今までと違う、鮮やかな色に見えていた。

「お前雰囲気何か違うなあ」と言われたことが記憶に刻まれている。まさしくあの日の私は違っていた。私の存在に意味が与えられたのであった。

早速、日本語の勉強を始めた。正直言って日本語自体に興味はなかったが、時間がたつにつれて、偉大な目的を実現させるための要因の一つである、日本語を習得することそのものがもう一つの目的となった。誇り高い私は、誰にもかわいそうに思われたり、優しくしてもらったりする必要がないよう、日本人と全く同じように、完璧な日本語を発揮できるようになるべきだと思った。朗読大会やスピーチコンテスト、様々な行事に参加

し、嬉しいことに、何度も賞をいただくことができ、生まれて初めて白らのやることに誇りを感じられたのであった。

残念ながら願うとおりにはいかず、数年間の努力と野望をこめてあの恐るべき試験に挑戦したものの、失敗してしまったのだ。「これからはどうするか。諦めるか、それとも最後まで貫くか、二つに一つなのだ。」と自分に繰り返し言う日々が続いていた。「疲れ果てた。もう戦えない。もうこれ以上は歩けない。だんだん見えなくなってゆくあの夢をつかむことは、まさか皆が思うとおりに実現させることは不可能だというのか・・・否、違うはずだ。まだ我慢しなければならぬかもしれないが、頑張り続ける。諦めない。諦められない。これからは何があろうと、どんな障害が現れようと、俺は貫く。皆を超えて、自分を更に超えて、絶対にユメを実現させるのだ！」。

決して諦めずに最後まで粘り続ける、という私の一面が今までよりずっと強く、絶えぬ光に照らされていた。その光、その辛さを乗り越えられる光は、夢を一生懸命追いかけることから生まれたのであった。

とうとう一年が去り、改めて受験し、今度は幸いなことに合格できた。我慢の極限まで、地獄のような不安な数カ月がたったら、あの数年間頭の中に描いていた勝利を告げる通知がついにやって来た。夢は結局・・・叶ったのだ。そし

て、まだ信じがたいことに、今この作文を書いている私は、憧れの日本にいる。いくら時間がたとうが、私はそれに慣れずにいる。おそらく、慣れることができないのは、夢を自分の手で実現させたこと自身なのかもしれない・・・

夢とは何だろうか。私にははっきりわからないけれども、あえて言うなら、夢はいわば人生そのものだ。夢のない人生は人生だとは言えまい。例外なく人間はいずれ死ぬ。そういう絶対的な事実をよそに、その限られた時間で、何かを果たすことに、いわゆる夢に夢中になれることは人間性だと言えよう。「人間というものが生きられるのは、食わずには2週間、飲まずには2日間、希望を持たずには2分間。」という、どこかで聞いたことわざは、人間にとっては命と夢とが一致するという意味を示しているのではないだろうか。

夢とは何だろうか。私にははっきりわからないけれども、あえて言うなら、夢はいわば人生そのものだ。あえて言うのなら、夢とは、必要不可欠で、素晴らしい存在だと言えるのではないだろうか。

私にも夢があります

昔 珍杓（韓国）ソク ジンピョ

優秀賞（上級）

私には夢があります。私はマーチン・ルーサー・キング牧師のような立派な人間ではありませんが、それでも私には大きい夢があります。それは今生きている全ての人々が幸せになることです。もちろん大部分の人々はこんな話を聞いたら、そんな夢が叶うわけがないと私に忠告するかもしれませんが。または、私にそんな非現実的な夢はもうやめるのがいいと言うかもしれません。私も知っています。この夢は絶対に叶わない夢だということを。でも、全ての間人は平等だと叫んだフランス革命の精神はいつも私に教えてくれます。まだ革命は終わっていない、人間だったら誰でも幸せになる権利を持っている、お前は今の世界に満足できるのか。私は部屋の壁に貼ってある世界地図を見ながら、その質問に答えます。この地図の中に住んでいる全ての人々が幸せになる時まで、私の夢は終わらないと。そうです。私にはまだやれることが残っています。

まず、はっきりしておかなければならない部分があります。幸せということはいったい何かという根本的な質問に対する答えです。もちろん幸せ

の形はさまざま一言で定義することは難しいです。たとえば、今通勤電車に乗っている人には空いている席が幸せになるかもしれませんが、もう座っている人にはもっと速く職場まで行くことが幸せかもしれません。つまり、同時に全ての間人が幸せになることはあり得ません。それにもかかわらず、私が絶対に諦めることができない理由は、私が夢見ている世界はみんなが幸せな世界ではなく、みんなが幸せになれる世界だからです。人間は何のために生きるのか。答えは簡単です。幸せになりたいからです。不幸になるために生きている人がいるわけがありません。すなわち、人間の全ての活動は幸福と緊密につながっています。ですから、今生きている全ての人々が自分が望んでいる人生を選ぶ自由があれば、そんな人生の中に存在する幸せを自分の手で掴む平等な権利が与えられれば、もっと多くの間人が幸せになる世界、いわゆるユートピアという人類の本望を遂げるのも妄想ではないと思います。しかし、どうして今の世界は私達の望みとは反対の方向へ向かって進行しているのでしょうか。それは、今

の世界に住んでいる全ての人々が自由でも平等でもないからです。

私は質量不変の法則というものを思い出します。この法則はある化学的な変化が起こっても、その物質が持っていた固有な質量は変わらないという法則です。私が急にこんな退屈な話を持ち出した理由は、この法則ぐらい今の世界に存在する幸せの形をちゃんと説明してくれる言葉がないからです。

幸福も同じです。世界に存在できる幸せの量は一定だと仮定すると、人の数が増えれば増えるほど、一人一人が持てる幸せの量も少なくなることに気づきます。ですから、今の世界に不平等に分配されている幸せの量を調節するためには、もっと多くの幸せを持っている人がその幸せを譲る勇気が必要です。でも心配しなくてもいいです。なぜなら、小さいのにしろ大きいのにしろ幸せであることに変わりがないからです。たとえば、私が韓国というかなり豊かな国で生まれ、いい親のもとで育ちました。これは驚くほどすごい幸せです。こんな私が世界の一部まだ経済的にめぐまれない国で生まれて学校に通えない子供のために毎月100円を寄付するとすれば、私が不幸になるのでしょうか。違います。私は相変わらず幸せで、そうではなかった子供達が幸せになれるチャンスが増えるだけです。でも、私が言いたいことはだか

ら寄付しろとか、第3世界の人達のために自分を犠牲にしろとかではありません。事実、そんなことは成立もできません。なぜなら、私達が享受している全ての幸せは、もともと彼らのものですから、彼らのために何かをすることは施すことではなく、返すことにすぎないからです。私達が今楽しんでい

る幸せは単なる勘違いにすぎません。結局、私達が誰かを手伝うことは選択の問題ではなく、人間としての義務なのです。

私には夢があります。その夢は大きすぎてみんなに笑われますが、私はかまいません。みんなが幸せになるために私達にできることは山ほどあります。それは、今の幸せに気付いて、その幸せがどんなに不合理なことかを知って、それを元の位置に戻せたら、それで十分です。私の夢は大きいかもしれませんが、その夢を叶えるために必要なことは実に小さなことです。そうです。私には、いや、みんなにまだできることが残っています。全ての人間が幸せになれる世界は夢で終わらないと思います。